



Title	スーザン・サイモン先生にきく : 米国の障害福祉 ワーカー教育
Author(s)	出版編集室
Citation	大阪公衆衛生. 1991, 60, p. 12-14
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83612
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

人物往来

スーザン・サイモン先生にきく

— 米国の障害福祉ワーカー教育 —

取材・出版編集室

7月8日、大阪府環境保健部・福祉部関係の職員が20人ばかり集まって、アメリカから来日中のスーザン・サイモン先生のお話を聞く会をもちました。

サイモン先生はニューヨークの出身で、現在はアイオワ州に住み、カークウッド・コミュニティカレッジで福祉職員教育の担当教授をしておられます。ご主人は数学者で、今春から関西学院大学に単身赴任で来日中。そこへ夏休みを利用して遊びにきたスーザン夫人が本誌の張編集長につかまり、アメリカの社会福祉や福祉教育についてのお話をさせていただくことになったという次第です。

サイモン先生の話は講義形式ではなく、参加者の質問に先生が答える討論会形式で行われました（通訳は張編集長）。以下、その要点筆記をご紹介します。

コミュニティカレッジ

Q お勤めのカークウッド・コミュニティカレッジとはどこにあるのですか？

A アイオワ州東部のシダーラピッズにあります。ここは人口5万の市で、その8割ほどは大学関係の人たちです。大学病院も大変有名です。とてもいい所ですから、皆さん訪米のおりには是非おいでください。

Q まず、米国のコミュニティカレッジがどういうものか、教えてください。

A コミュニティカレッジというのは、米国では非常に普及している教育機関で、アイオワ州だけで、現在15もあります。コミュニティカレッジは2年制で、実務的な教育をするという意味では日本の専門学校と似ています。しかし、4年制大学との間に単位の互換性があるという点では、大学としての位置づけもあるのです。2年間の教育を受けたあと、

ひきつづき地域の4年制大学に編入学する人もあり、いったん社会に出たあと、編入学する人も少なくありません。

Q 先生の障害福祉科に入学してくるのはどんな学生ですか？

A 多くは高校卒業したばかりの、18～19歳の人たちで女性が多く、これが昔からコミュニティカレッジの主流をなす学生グループなので、私たちは「トラディショナル」と呼んでいます。それに対して「ノン・トラディショナル」と呼ばれる学生グループは、30～40歳の社会人や主婦の人たちです。この人たちは、高卒の時点では大学進学を考えていなかったし、また福祉領域での就職を希望していたわけでもありません。ところが子供や家族など、自分のまわりに障害者がいるということが動機になり、福祉学科を志望して入学してくるのです。

Q 年齢が高いと、卒業後の就職には不利ではありませんか？

A いいえ。社会経験があり、判断力もすぐれているというので、かえって雇用者から歓迎されています。在学中にスカウトされて就職する人があり、困っているくらいです。

教育課程

Q 教育課程の概略をご紹介ください。

A 私の担当の障害福祉科についてお話ししましょう。①まず、2年間勉強して64単位をとり、准学士の称号を受けるコースと、②1年で32単位を取り、ディプロマを受けるコー



スーザン・サイモン先生

スとがあります。①も②も、教育の基本目標は、学生が障害者サービスの理念と実務を学ぶことです。ディプロマ・コースでは1年で下記のことを学びます。

- ・障害者サービス概論。
- ・ヒトの行動の観察の仕方。
- ・メインストリーミングとは何か。
- ・障害の身体的・医学的側面を学び、障害の原因や治療の実際を知る。
- ・2か所の現場実習（110時間）。学校側が学生の到達目標を設定し、教員が巡回をして指導にあたる。
- ・一般心理学。
- ・コミュニケーション概論。

・救急蘇生法。

以上がディプロマ・コースの科目ですが、2年コースの学生はその他に数学、科学、歴史、文学、芸術文化などの一般科目を学び、これで62単位になり、修了者には准学士の称号が与えられます。

Q 卒業後の就職先は？

A つぎの3領域に大別されます。

教育領域……障害児のための、養護学校あるいは普通校での教育に従事する。

職業領域……障害者の働いている場所へ行き、専門家としての援助をする。

居住施設領域……グループホーム（6～10人の共同生活施設）やアパートで生活している障害者へ生活上の諸種の援助をする。

ジョブコーチ

Q 職業領域のことについて、くわしくお話しねがいます。

A 最近のアイオワ州の方針でもあるのですが、障害者の就労や居住は、大きな施設で集会的にするのではなく、小さなグループをつくり、それが社会のさまざまな場面に参画するようという行き方をとっています。

Q たとえば？

A たとえば、きのう私は西宮で障害者ばかりの印刷作業所を見せてもらいましたが、アイオワでは障害者だけの印刷所をつくるのではなく、障害者が一般の印刷所に通い、健常者と並んで仕事をする方針を取っているということです。

Q それはどんなメリットがありますか？

A 健常者の中に入っていくことで障害者が積極的になり、付加的な能力開発にもつながり、それだけ障害者の自立性が高くなります。そうすれば収入もふえ、税負担力も上がり、社会的貢献度が大きくなるわけです。

Q その場合、先生の学校の卒業生は、ど

ういう働きをするのですか？

A 普通の企業などに障害者が就労した場合、仕事ができるようになるまで、その仕事場へ行って指導援助をする人のことを「ジョブコーチ」と呼びます。

Q 耳新しい言葉ですが…？

A ええ。ジョブコーチの養成は、カーウッド・カレッジでもまだ2年前に始めたばかりで、現在15人養成中です。従来、障害者の就労訓練は、障害者センターに障害者を集めて行っていました。今度は反対に、企業などに勤める障害者のところへ指導者が出かけて行くことになるので、指導者自身が新しい勉強をせねばなりません。それで、従来の指導者を再教育する夜間のディプロマ・コースを設けています。

障害者福祉の基本

Q アイオワ州では、企業は障害者雇用に意欲的ですか？

A 企業は慢性的な人手不足状態です。離職や転職も多く、恒常的に人を欲しがっています。ところが障害者は定着率が高いし、また障害者を雇用しているというPR効果もあるので、企業側は歓迎しています。また政府も、障害者労働センターの設立に支出をするよりは企業の税金の軽減措置をはかる方が効果的で有利だと考え、この方向を推進しているので、障害者雇用による企業側のメリットは高いのです。

Q 福祉分野は地味な仕事で、日本では若い人が集まりませんが、アメリカではどうでしょうか？

A アメリカでも同じことで、若い人が積極的に参画しないことが悩みの種です。

Q なにか良い処方せんはありますか？

A やはり、まず障害者が社会のメインストリームにどんどん出てくるような状況をつくる。それによって社会の認識が改まり、多

くの人がこの分野の仕事をするようになって行くことが大切だと思います。

Q 障害者福祉について、先生の基本的小お立場は？

A 障害者の、人間としての尊厳を大切にすることが出発点です。したがって、まず障害者本人の考え方を尊重します。また、ノーマルな社会というのは障害者を含んだ社会であるという認識も、非常に大切なことですね。

Q 福祉職員の教育について一言……

A 社会には若人も老人もいるし、強い人も弱い人もいて、さまざまな個人差があります。障害者だって、個人のニーズは1人1人異なるのです。この当たりまえのことが、最近やっと認識されるようになってきました。障害者サービスの仕事をする人も、障害者それぞれの具体的なニーズを的確に知り、それに応え得るような勉強をする必要があると思います。

では最後にひとつ、私の好きな寓話を聞いてください。こんなお話です…

『あるところに、とても広い砂浜がありました。1人の若者がやってきて、砂浜に打ち上げられた1匹のヒトデを拾いあげ、そっと海にもどしました。それをみていた老人が尋ねました。「なぜそんなことをするのか？」。若者は答えました。「乾いてしまうとかわいそうだから…」。老人は尋ねました。「だが海岸線は長い。この砂浜には千というヒトデが打ち上げられているだろう。それを皆、海にもどすのか？」。若者は、またひとつのヒトデを拾いあげ、海に返し、そして言いました。「このヒトデは、さっきのヒトデではない。こうやって1匹ずつ私が海に返してやれば、やがてはみんなが元気に生きていく」と。』

この寓話と同じように、障害福祉の仕事は何千となくあります。それを1つ1つこなしていくのが私達の任務だと思っています。